

踏まれ踏まれても生き返る

NO.23 2025.4.18

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matcham@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」

地域自主活動グループのページでも閲覧できます。ほかのグループも見てください→ <http://ow.ly/nqgc50AoMDs>

2025 年の区内ニリンソウ 4か所の様相を見て、考えること

今年の都立赤塚公園「ニリンソウ月間」は、新しい運営体制になって2年目の「守る会」のみなさんが天候不順に悩まされながらも頑張って、運営をつつがなくこなしてくれました。この前まで運営のトップに立っていた人間が活動の第一線から引退後も現場に顔を出すと、どうしてもひと言ふた言余計な口を出したくなるもので、そういうことはしてはいけません。だから、今年のわたしは月間の初日にちょこっと顔を出しただけで、あとは後継のみなさんにお任せするだけでした。

それに、去年から続いている腰痛が治らず、最近の外出はどうしても出かけなければならない用事以外には近所のお散歩が基本になりました。お天気の晴れ間に、ニリンソウが咲いている場所をいくつか観察しながらの散歩でした。今号は、こうして各所を見比べて見えてきたことのレポートです。

① 民家の玄関前花壇のニリンソウ あれれ！ とんでもない八重咲が・・

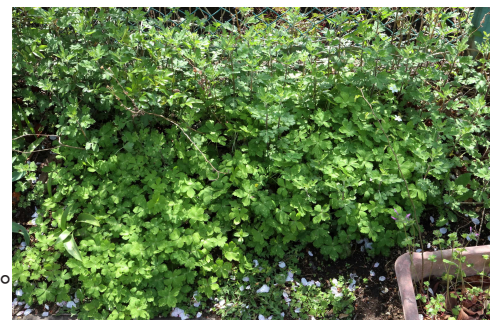


前号（4/4・No22）で紹介した民家の玄関前花壇のニリンソウですが、その後、しっかり咲きました。でも、上の写真の2群のうちの右側の群のニリンソウ、なんかおかしいぞ！ 清楚な感じのニリンソウらしくないふくよかな花です。眼を近づけて見ると、なんと萼片が13枚もある八重咲でした。都立赤塚公園の大門自生地でも八重咲ニリンソウは散見されますが、こんなのは初めて見ました。もしかしたら、どこかの花屋さんで売っていた半分園芸種のニリンソウなのかもしれません。

② 石神井川緑道のニリンソウ 今年は葉っぱばかりが勢いよく

群落の大きさは昨年より拡大していて展葉状況も順調に見えていたのですが、開花期になっても2輪しか開きませんでした。写真でははっきり分かりませんが、つぼみも付けていませんでした。

緑道の反対側の民家側の花壇に飛び地したニリンソウは株数も増えてちゃんと咲いていたので、この場所では展葉してから開花するまでの地面の乾燥や気温不安定などが影響していると考えられます。



③ 清水町の「みどりの公園」ではしっかりとした管理がされていました



昨年と同時期、ニリンソウにつく虫ルリマルミノハムシを見つけた場所ですが、今年も元気にきれいに咲いていました。虫はいませんでした。面白いことに、この場所ではヤマブキソウもあるのです。

もう10年以上も前、この公園用地を板橋区に提供した地主さんが区からニリンソウの提供を受けて、どのように育てたら良いのかを区に相談。みどりと公園課がわたしにつないでくれて相談に伺ったことがありましたが、その時にはヤマブキソウなんてあるわけがなく、これは後から持ち込まれたもの

だと思われます。まちなかの公園でのニリンソウ栽培ですから、どうしても花壇的・展示的な管理になってしまうのは仕方がないことで、それでも、ここを管理している人はとてもよくやっていると思います。

④ 最悪なのは区が管理する場所でのニリンソウの状態

前野町は武蔵野台地を出井川の流れが刻んだ舌状台地（ぜつじょうだいち）にあり、谷と丘が連なる起伏の激しい土地です。その一角の板橋区立日暮台公園は名称でも分かるように高台になっているのですが、ここにニリンソウが自生することはもう何10年も前から知られていました。

そこに注目した元区役所職員の活動者が保護活動を始めたのですが、この数年は放置状態。ニリンソウが広がっていた場所は緩やかな斜面で、むき出し露地では乾燥が激しく、加えて表土と落ち葉の流亡も激しいので、それを食い止めるためにアズマネザサを背丈を低くして残すなどの工夫をしていたようなのですが、それでも土壤乾燥は激しくニリンソウは定着しなかったようです。現在では、保護柵の杭の根元の土壤流亡が防げたり日陰になったりする場所でぽつんぽつんと生き残っているだけでした。



もともと自然の状態で自生していたニリンソウですから、管理エリア外の崖の上の平坦部分でも元気に生きていたのですが、ここは公園の管理者による徹底した草刈りによって消失または大幅に減少しています。ここを管理して自分たちの成果であるのかのように語っていたグループは今、なにをしているのでしょうか？ ニリンソウを区の花に掲げる板橋区はここにニリンソウが自生しているのを知らないわけがないのに、無策であるどころか生育環境を自ら破壊しているのは、どういうことなのでしょう？